

令和4年度第1回七尾市部活動のあり方検討委員会 会議録

1 日 時 令和4年11月24日(木) 15時30分～16時45分

2 場 所 災害対策本部室

3 出席者 黒崎 直人 委員長(七尾市教育委員会)
佐原 鉄郎 副委員長(NASPO)
大森 重宜 委員(金沢星稜大学人間科学部教授)
國下 正英 委員((公社)七尾市体育協会)
柘植 英一 委員 代理西本 義光(田鶴浜スポーツクラブ)
前田 忠久 委員(なかじまスポーツクラブ)
谷内 博史 委員 代理平山 譲(能登島少年少女スポーツクラブ育成会)
井上 一幸 委員(七尾市小中学校校長会)
野見 英輝 委員(七尾市中学校長会部活動検討委員会)
川下 五継 委員(七尾市PTA連合会)
小池 まり 委員(七尾市PTA連合会)

石川 利樹 教育部長
横川 俊充 教育総務課長
山原 真吾 学校教育課長
見里 博之 総務課課長補佐
岡島 征史 学校教育課長補佐
小林 義和 スポーツ・文化課課長補佐
岩端 長紀 スポーツ・文化課主幹
川向 藤和 教育総務課主幹

4 議事録

<進行>

(横川教育総務課長)

初めに、この検討会の目的について説明します。部活動について、国では令和5年度から7年度を目途に、休日の部活動の段階的な地域移行を進めています。本市においても、少子化の中で中学生のスポーツ機会の確保を図るため、休日の移行が出来る部活動から段階的に進めて行きたいと考えており、スポーツ団体、保護者、学校関係者の皆さまと協議をさせていただきながら、進めていきたいと思っています。

本日は、教育委員会として今後の取り組みについて説明させていただき、ご意見を賜りたいと思っていますのでよろしくお願いいたします。

<開会あいさつ>

(黒崎教育長)

皆様におかれましては、七尾市部活動のあり方検討委員会の委員就任をご快諾いただきまして誠にありがとうございます。また、本日ご多用のところ会議にご出席いただきまして、重ねてお礼を申し上げます。今年度、全国的な流れの中で、6月

に運動部活動、それから8月には文化部活動の地域移行について、スポーツ庁、また文化庁のほうから検討会議の提言を受けて、少子化の中でも将来にわたり子供たちがスポーツ等に親しめる機会の確保に向けて、学校部活動の地域移行を検討するため、この会が発足されました。また来年度からは、今年度まで生徒全員が必ずどこかの部活動に所属する「全員加入制」から、部活動本来の自主的・自発的な活動参加により行われる、希望者のみが加入する「希望加入制」に変わることとなります。これまでの部活動のあり方では維持出来なくなる可能性はありますけれども、一方で子供たちの選択肢が広がり、複数校での合同チームによる大会出場ということも既に事例もございますし、今まで認められていなかった大会へのクラブチーム単位での大会参加も認められるという方向になっております。しかしながら、学校の部活動のあり方というものは、やはり子供が主体でなければならぬだろう。そして、子供たちのための部活動であるというところは、しっかりと守って念頭に置いていかなければならないだろうと思います。令和5年から令和7年の3年を目途に、まずは土日の休日いずれかの地域移行を順次進め、可能な限り地域移行を進めていきたいと思っております。

委員の皆様方には、これまでの経験を活かし、いろんな面からご意見をいただき、今後の円滑な地域移行にご協力いただけることに感謝を申し上げまして、開会の挨拶とします。

<委員、執行部紹介>

(委員、執行部の順に紹介)

<委員長・副委員長について>

(要綱により、委員長は教育長、副委員長の互選)

(事務局へ一任)

事務局案 副委員長に佐原委員を提案

(全委員の承認)

<議事>

【説明事項】

七尾市中学校部活動の現状について

(山原学校教育課長)

【協議事項】

部活動の地域移行について

(川向教育総務課主幹)

(黒崎委員長)

たくさんあったわけですがけれども、あくまでも、今説明があったものにつきましては、七尾市教育委員会として、どういう方向性であるかというあたりを考えていくところでありまして、これで行きますよということではございません。やはりいろんな課題がございます。そういう中で、皆さんからの疑問な点あるいは課題・問題そういったものを本日は出していただいて、そして2月にはそれを整理した上で回答できるような形で持って行きたいと思っております。また、7ページのところでもスケジュールがございましたけれども、令和5年度以降につきましても、定期的

に検討委員会を開催していかなければならないと思っておりますので、詳細につきましては2月の2回目の検討委員会の会議で、ご提示させていただければと思っております。繰り返しになりますけれども、教育委員会の方向性をこういうふうにして考えているんだというような説明であるということをご理解いただいた上で、いろんな観点からご意見、ご質問、そしてこういうところも課題ではないかといったところをどんどん忌憚のない意見を頂戴したいと思います。どなたからでもよろしいです。よろしくお願いいたします。

(川下委員)

移行のスケジュールはほかの地域と一緒にですか。

(横川教育総務課長)

石川県は能美市と小松だったか、昨年から国のモデル事業として取り組んでおりまして、この近辺では七尾市が先駆けてやるような形になるのかなと思っております。スケジュール的には5年度から出来るところから始める形になっていくと思っております。

(川下委員)

ほかの地域と同じようなステップですね。

(黒崎委員長)

モデル地域については、すでに昨年度から実施しているというところでありまして、そうでない地域についてはまだ…金沢は立ち上げたのか。

(大森委員)

金沢は右往左往しています。

(黒崎委員長)

そういうような状況で、どこも周りを見ながら動いているというところが正直なところだと思います。

(川下委員)

ありがとうございました。

(平山委員代理)

6ページの(2)⑦で、クラブが参加できるとあるが、私はソフトテニスなんですけど、石川県の中体連は上手くいっていますか。

(黒崎委員長)

これは中体連会長の野見会長、いかがですか。

(野見委員)

もう一回、質問をお願いします。

(平山委員代理)

大会運営は中体連がほとんどやっていますね。クラブチームが参加する場合、運営できるようになっているのか。聞いたところでは、地域の地区大会にはクラブ参加は認められないとか、県体だけ出られるとか。

(野見委員)

中体連でも今話を進めています。全国大会のほうも、来年度から学校の部活動として出場するものだけではなく、クラブチームとして出場するものも全国大会を認めるとなっていますので、それに合わせてやる北信越大会、県の大会というのもクラブチームの参加のほうを認める形になっています。これは競技ごとに、県の大会の持ち方っていうのを今検討しています。競技によっては、ブロック大会、ここでいう能登地区大会から参加をして行くような競技もあれば、県体から、例えば能登地区、北加賀、南加賀の3つブロックがあるんですが、そのブロックの他に、地域スポーツの枠っていうのを県で作って、そこはいくつあるかわからないですが、その地域の競技団体で予選をし、1チームなり、2チームの枠は競技ごとに決めますが、それを出してほしいと言うことで、考えているのは県体の規模自体は変えない、総数のチーム数は変えない、参加するチームは変えない、規模を大きくする事をしないということで、大会のほうを考えています。大会運営についても、もちろんクラブチームのほうで参加する場合には、クラブチームの方にも大会運営のほうはお手伝いをしていただくことで、中体連のほうは考えています。競技によって、ブロック大会からそのチームが参加するのか、それともクラブチームごとで集まって予選をし、そこで勝ちあがったものがブロック代表と同じようにして、全体のほうに参加して行くというパターンを、今、競技ごとに検討しているところです。

(黒崎委員長)

ありがとうございます。

(前田委員)

関連して、そうすると今までの中体連の部活動は学校単位で、そしてクラブも出てくる。ところが学校単位とクラブが同じメンバーのときは、どっちも出られるのでしょうか。

(野見委員)

それは無い。どこかの段階で、自分はクラブチームとして参加するのか、もしくは学校の部活動として参加するのかということを決定する形になります。二重登録は出来ないような形で考えています。

(井上委員)

今の話で二重登録ができないということに関連するところもある⑥番は、過去にもあるわけです。平日は部活動、休日はクラブ、正式にはクラブとして立ち上げて登録をしている子が、例えば個人スポーツならば競技によってなんです、団体の野球でクラブにチーム登録をしている。その子が、平日は部活動でやりたいと。そうすると中学校としては、部活動で頑張っている子供を大会でそのまま出たいていうところに、クラブに所属している子が、平日だけはとなると混乱が出てくる。現在どんな風になっているかという、競技によっては、例えばサッカーとか野球は

きちんと整備されていて、部活動に入るか、クラブとして登録するか、クラブに登録している生徒については、部活動に登録できませんので、部活動ではトレーニング部とか、あるいは文化部とか、他の部に所属するという現状があります。それが今の⑥のところで、この文言でいうと、迷う制度が出てくるかなというような気がしています。

(國下委員)

校長先生がおっしゃった通りで、これを見ると、いかにもどっちにも出れますよと思う。こんな良いことは無いというと思われる。もう一つ野球に関連して、シニアで硬式をやっている子がいます。これはどうなるのでしょうか。

(野見委員)

中体連の種目の中には硬式野球は無いので、これは従来通りの形になるんじゃないかと思っています。

(國下委員)

⑥⑦を見ると、いかにも他に好きにやっていて、平日どうぞ学校単位でも入れますよという二重に取れるように勘違いするから質問した。もともと入れないことは知っていた。

(平山委員代理)

その件に関して、校長先生にお願いしたい。もしそんなのになっても、平日は部活動のほうと一緒に混ぜて練習させてもらえるだろう。そして、クラブはずっとやっているが、土日だけやる場合もあります。

(井上委員)

非常に、このところは難しい。難しいって言うのは、部活動に母体を置いて、つまり部活動の登録をされていて、例えば土日にクラブに参加しているような場合には特に問題はないのですが、このクラブに参加している子で、大会はクラブに出るんだけど、じゃあこの部の時間に一緒にというのは、今のところ難しいのではないかなという気がしています。というのは、施設の問題もありますし、それから部の顧問の先生も、本来ならば、働き方改革という視点も含めて検討してもらっているものが、クラブに登録してそっちで大会に出るって言っている子が、部のほうになると、混乱するんじゃないかなっていうふうな思いを持っているのは事実です。

(平山委員代理)

能登島少年少女スポーツクラブは小学生が対象ですけど、中学生も入れてやっています。私の場合はテニスでやっています。学校が休みの時は、スポーツ保険に加入して一緒に練習するというような運営をしています。能登香島の部活動指導員もやっています。能登島ジュニアのテニスの活動の主宰もしています。

(井上委員)

個人競技だったら一緒にやっても、さほど違和感はないのかなという気はしています。ところが団体になると、部をやっているメンバーで、大会に頑張っ

たいと思っているメンバーのところに、例えばクラブチームの試合があるときに、その子らが敵みたいなお互いに競い合うような試合になるとか、なかなか難しいなと自分は思っていますが、例えばバスケットボールだったら、今のところ登録がものすごく簡単にできる。ある一定の期間は部として登録していて、一定の期間になったらクラブのほうに登録できるというのを聞きました。そこからはクラブとして、ほかのチームが集まって、クラブチームで協会が主催する大会に出て活躍をしている。また、1月・2月になったら部のほうに登録し直して、今度は部として活動している競技もあるようです。その競技や協会の登録の仕方にもよるのではないかなと自分は思っているんです。やはり野球はすごく厳しいというのを聞いています。部の登録とクラブの登録がはっきりしていて、一切ダメだと聞いています。

(川下委員)

6ページの(5)(6)につきまして、私のイメージだと全く同じ子供たちのメンツ、指導者のメンツのまま平日は部活として活動して、土日も全く同じメンツでクラブとして学校の部活じゃなく、スポーツクラブとして活動すると思っていたんです。だいぶ違うみたいな話だったので、今、私が言ったみたいにそういうやりたい方も多分このままうちの子もいろいろそういう感じなんですけど、そういうのも改めて明文化しないと、絶望の中に入ってしまうような気がする。それはそれで、そういうやり方をしたい人はみたいな感じも、わかるようにしていただきたいなと思いました。ご意見ということで、例えば部活じゃないところのスポーツクラブに予算化する子供たちもたくさん出てくるわけですね。一応、私も協会とかに関わっているんですけど、みんな存在を知らないと思うんですけど、そういったところに所属して、戦いを組んで休ませてくださいというのは、どうなるんでしょうか。

(山原学校教育課長)

まだ具体の例にはならないかもしれないんですが、今まで中体連の大会について子供が参加する時には出席になっています。中体連以外の大会について、実は今、ほかの団体として参加させてほしいという団体からの依頼があったときに、その扱いをどうするかってということで、ちょうど今、中学校校長会に投げかけて諮っていただいたところなんですけど、子供の不利益になるようにはしないというのが大前提だと思っています。ただ、出席というふうに考えていくと、学校の管理下ということになりますので、学校は引率をして、大会に参加をして、帰ってくるということは管理下でいいんですけども、外部の団体が、例えば保護者に依頼をして連れて行ってもらっているものが、学校管理下ではないだろうということで、出席ではなくて、出席停止という、出ても出なくてもいいよという学校に登校しなくていいですよという扱いにするので、欠席にはならない。そんな扱いで、今4中学校の中で話をしていただいたところになります。不利益にはならないように考えていただけるということで井上校長よかったですか。

(井上委員)

そうです。

(川下委員)

一応、部活動の参加が全員参加じゃなくなるということであれば、スポーツ関係

の団体の勧誘が激しくなってくると思うので、空手にしろ、マイナーなラグビーにしろ、いろいろと問題が出てくると思う。そこら辺の対応について、正直、学校の部活動を今はメインとして対応を進めているし、それに余裕は無いと思うんですけど、そういったところに参加することが増えるだろうということで、対応のほうも抱えていきましょう。

(大森委員)

このことを長い目で捉えとかなければいけないと私は思ってまして、今のこれは全国の津々浦々同じように右往左往してるんですけども、文科省が何故こんなことを言い出したのかということをもっと押さなければいけないんですけど、実は昨日そのことで文部科学省というベストセラーの本を描いた話を聞いてきたんです。文部科学省を設置したときの最初のうたい文句は、機会の均等、運動部活動に全員入るってことの延長で、皆が運動できる環境を作って差し上げましょう。部活動は運動だけではないんですけども、やりたいことをやる機会を均等に与えましょうということが悶々として出てきます。ところが、もう方針を変えました。これは選択と集中ということになります。スポーツに関しましては、文科省の予算が20年前は6兆円ぐらいだったんですが、今これは減っています。科学技術庁と文科省がくっついたもんですから、科学技術庁のほうは関係のお金が増えているんですけども、文部行政の学校はずいぶん減っています。特に、スポーツに関しては年間354億円。これは全体の0.6%なんですけれども、尚且つ、この事業に対しては、今年予算がですね、49億円つけるというようなことになったはずなんです。そこからどれだけ回ってくるか分かりませんが、19億円が49億円で、すごく文部科学省の中では頑張っていることなんです。やり方としては、この初等中等教育から高等教育に全体をシフトチェンジするんだってということがあります。従いまして、最終的には民間的にやるしかないというようなことになることは、これは間違いありません。そのようにシフトを変えていく方針が決まっていますので、そこに関してスポーツクラブをどのようなことにするのか、最初にモデルとして考えたのが、昨日のサッカーで説得力の無い話ですけど、ドイツがゴールデンプランというのを作りまして、誰でもスポーツに参加できるということなんです。その一つの目的が医療費の削減でした。そのことを目的にしてやるということになりまして、我々は今、この話はですね、子供たちの部活動の活性の話になりますけども、少し大局的に将来こうなるんだっていう目で、そういうものをこう睨みながらやっているとですね、目の前のことは当然ですけども、5年、10年後にどうなるか。もちろんこの人数のことも出ておりますけれども、選択と集中の話はもう間違いない。例えば、この辺だと七尾高校がスーパーサイエンススクールには外れたんでしょうか。それってというのは、ほかの予算を削って七尾高校に金をかけるっていう意味ですね。全国にいくつもできてくるわけで、完全にそういうふうにもう始まっていますから、結果が残ったところには何かしらということでしょうけども、最終的には自分たちでやれということに落ちると思います。そのことを睨んでやっていかなければいけないということだと思えます。

(平山委員代理)

私らは能登島でソフトテニスを教えているんですけど、大会は七尾クラブに入っている。能登島の子は6人ぐらいの子が入っていて、来年、中学生になるんです。

そうすると、能登香島と七尾東部か七尾中に別れるんですけど、こういうことを認められると、クラブで集まって全国目指そうとなりかねないんです。その辺をしっかりと校長会のほうでも中体連でも、別れたら県の代表になれないから七尾クラブで集まって全国目指そうかということも出てくると思いますので、しっかり2月の時までにクラブが減ったら部活の練習ができないとか、クラブだけ行ってくれと、どっちでも出来るよと、大会はクラブ参加できる道筋をつけて欲しいです。6年生、5年生でいま石川県1位になった能登島の子がいるんですけど、このぐらいでもすぐ同じですが、もっと長期的な考えの話があったんですけど、私は本当にもう来年再来年に問題が出てくるもんですから、結論を出して欲しいと思います。

(石川教育部長)

用語の解釈のところだけ説明させてください。資料6ページの1の(2)の⑥番で、平日は学校部活動で活動し、休日は地域部活動というこの部分なんですけど、最初のほうに二重登録は無しなんですっていう話がありました。二重登録は無しなんですよっていう頭につく主語は、大会参加の二重登録は無しなんですということなんです。今言ってるのは活動することで、大会に参加する種目は別に考えているっていう話なんです。資料の9ページをご覧くださいなんですけど、国が出している資料の中で、左側に目指す姿というふうに書かれた上のところを言っていたら、その囲みの中の最後のほうに、真ん中辺りには子供たちの多様な体験機会を確保という中に最後に複数種目等の活動を提供できる体制を作り上げるというのがあります。競技スポーツを目指す子ばかりではなくて、スポーツに親しむ子もいるという中で、一方ではサッカーを選びながら、一方では野球も楽しみたいという機会も確保して行くという話でございますので、どちらもっていう冒頭に戻ると、二重登録は、大会の二重登録ではありませんよということと、活動と大会参加する種目を別に分けて考えているということでもあります。

(國下委員)

硬式のシニアの子をよく知っており、彼らは硬式をやるんですけど、今全員参加なもんで、文化部に入りますよね。文化部で何してるのか果たして本当にそうなんですけど、あれなんですか。硬式野球をしてる人は、実際、芸術文化部に入ってどうなんやというのをずっと思っていたので、今言われたんやったら、それなら野球部とか試合には出れないけども、そのためにはなるような運動部に入れさせてあげればいいんじゃないかという話になるんですけど、どうなんですか。

(井上委員)

現実それはそんなふうには、例えば陸上部だったりとか入る子はいます。大会に出ることを目的にしていたっていうのが今までのので、イヤイヤ入っているっていう現実もあって、それで希望制にしたっていうこともあるんです。例えば野球もやりたいけど、僕は美術も一生懸命やりたいんですっていうんであればいいんですけど、そうではなくて、野球はやりたいと思って、しかも硬式やりたいけど、部にどっか入らないかもんでしょうがなしで美術部に入ったんだと、あるいはどっかの違う部に入っていると、そこでやっぱり他の子との温度差みたいなのがあったりして、申し訳ないけど、全然参加しないというような子もいます。希望制というのは、その辺から出てきたというのもあります。

(國下委員)

するんですけど、まだ今度だからはその複数を狙ってここに大義名分だってあるんだから、硬式野球をしながら平日は試合に出れなくても、軟式野球部にはどうぞ入ってもいいという理解にはならないんですか。

(井上委員)

野球連盟の問題。

(國下委員)

これ、大会出場でしょう。だから出場できないのは分かりました。

(井上委員)

正直じゃあ中学校の現状から言いますと、例えば5時になったら僕シニア行きますと、その責任はじゃあ本当にどうかとか、やっぱり自分達は何時になったら、ありがとうございますって整列して終わって、親にもこの時間に終わりますということもあったりして、あるいは中にはシニアでやってると、9人で野球するときは何て言うか、チーム練習もやるならどうしてもその目先っていったら変なんですけど、2週間後に大会があるから、そこを目指して頑張ろうよって言って、練習試合もそんな風にしたら、ところが練習に途中までこう参加したり、あるいはその平日は参加していてもいいですよ。その後は、土日は他のところ行って大会やとるってことで、なんとなくやってみなければ分かりませんが、子供らの間でも違和感とか距離感が出てくるんじゃないかなっていう心配はあります。それから顧問の先生も管理するのに難しい。本当に土曜日、そのシニアの大会練習試合があるのか。こっち来てくれればいいんだけど、そこ行きますって言うときながら休んで、今までその部で練習するわけなんです。その部も一緒に練習したけど、大会には全く出ない。逆にもっと僕練習したくて部に入ったのに、玉の数で言えばやっぱり少なくなるっていう問題も出てきたりとか、こう混乱するかなっていう気はしてます。

(國下委員)

経過としては充分に分かるので、そのシニアの子らは、平日は全く練習しませんから、休日しか練習しないので平日の練習は途中で終わって、「さよなら」っていうことはない。言いたいのは、ずらずらと今度地域が変わっていくのになって、すごい自由なもんもんがいっぱい出てくるので、それを言いたかった。

(井上委員)

今までは線引きがあって、シニアでやっていた子らが部のほうに参加することは全くなかった。それは七尾市だけじゃありません。全国的にそうだと思います。サッカーは高校でも部活動に入っているのか、下部組織の何とかがってところに行っているとか整理があって、ところが難しいのは今まであった線引きを、このクラブという話になってきた時に一緒になってしまう。今のような問題が出てくると思う。その問題をどうするのかっていうことが、七尾市のこの会議でじゃあ何しますって果たしてできるのかなっていう思いは、現場の人間として思っているんです。なので、来年度間違いなくできるのは希望制にすること、それは先ほど言ったように、シニアの子の中でもイヤイヤやってる子もいるんです。本当は家に帰りたいけ

ど、部活があるからって美術部に行けば嫌だなと思って、やる気のないような感じで、それはもう先生が「頑張れや」と言い方してると、そういう場面もあります。やっぱり希望制にしたほうがいいだろうということです。

(國下委員)

シニアの子供達がここを望んでると言った訳ではないので、第三者的に、どんな効果があればいいんじゃないかなと。自分の意見で言ったので、失礼しました。

(平山委員代理)

決め決めにせずに、許可もらって部に参加するとか、なんかそんな子どもの多様性を考えたらいい。

(大森委員)

あくまでも今のところ競技団体の規則なんです。それが国の方針ですから、緩くなっていくと思います。我々が悩んでいることは、そこで解決が恐らく出てくるはずです。どの競技団体も、例えば個人競技なんかも、クラブチームなんかも高校生が出ちゃいけないことは当たり前だったんですけれども、今もそんなことは全くございませんので、いろんなところで個人から始まっておりますけれども、おそらくそういうふうになくなっていくんじゃないかなと思います。

(井上委員)

中学校としてお願いしたいのは、平日は部として登録していただいて、土日は担当の先生が出れないってような時に、どこかのクラブに行って、あるいは誰か指導者が他に入って見ていただければ助かるとていう、そういう気持ちは持っています。

(平山委員代理)

それは今でもやっている。

(井上委員)

その辺が何ていうか、オープンというか、ただその逆もそのパターンなんです。自分も今本当に、例えばサッカーでセブンっていうのがあります。その子らも平日は部に入っていない。バスが来るまで待っていて、トレーニング部に参加してるんですが、どっちかっていうと待っているような状態です。平日は一定の時間が来たらそこへ行くんです。その子らは30分とか40分だけ、うちのサッカー部に一緒に来て練習させてくれって言ったときに、現実問題できるのかなというのもあったり、頭抱えています。そこが、課題でどうすればいいのかっていうのは、私たちも課題として考えていかなければならない問題かなと思っています。

(前田委員)

クラブとして参加する場合は、学校の先生が引率しなくていいのか。なぜかという、私は中島ですけど、まだ昔の流れがあって、保護者の方で「なぜ先生がいないのか」と言ってくるのがよくある。これを広げていく時には、関係者じゃなしに「変わりますよ」という保護者のほうにどんどん周知していかないと必ずで

くる。私はそうやってやられたほうですからよく分かる。やっぱり保護者の方に周知徹底していただくような、そんな仕組みを作っていたきたいと思います。

(黒崎委員長)

これを5年度からスタートということであれば、当然地域それから保護者の皆さんには周知していかなければならない。

(川下委員)

硬式と軟式、うちの子供は野球やってるんですけど、私自身もタッチラグビーの協会に所属してるんですけど、一見やってること一緒のようにみえて、教え方も競技の仕方も、全然違うものもあつたりするので、そこらへんは正直ここでお話しをするというよりも、団体の方々とのすり合わせをしないと正直どうにもならないだろうなと思うんですけども、ただそこで思ったんですが、その団体の人との競技団体、中体連とかもそうですけど、対応の仕方が他の市町村と違ったりしたら、子供の将来と言いますか、小学校から中学校に移る時の学校のまた移動とかにもかかってきそうなので、他の市町村と定期的にはこういう対応について、今こんな風になっているとか話す機会はあるんでしょうか。

(横川教育総務課長)

特に他の市町村との交流は無いんですけども、先進地の視察のほうは富山県黒部市に行ってきたりはしました。ただ黒部は、黒部版の地域移行の取り組みをしていますし、七尾は七尾でオーソドックスな形だと思うんですけど、七尾版の形として変わった形にする予定はないんですけども、基本的な形で取り組みを進めていきたいと思っています。

(川下委員)

もしかしたら、中能登町や羽咋市とかと全然違う、例えば野球にしてもサッカーにしても何ていうか、その中体連とか連盟とかに対するこの地域でやりますってやり方が、隣り合った市町村で全然違う形になる可能性があるということでしょうか。

(横川教育総務課長)

中体連でもそういった関わり方は多分同じです。違う形ではないと思います。

(黒崎委員長)

私見ですけども、そんなに大きくは変わらないと思っています。実は、2020年から既に新潟県の県教委が県全体の枠組みを作っていこうっていうことで、もう既にスタートしているんです。本年度は十いくつだったかの市町がもう既に取り組んでいるということで、本来ならば、石川県の教育委員会が音頭を取ってやってくだされば、どの市町へ行っても同じような状況ですよっていう形にはなれたのかなと思っていますんですけども、そうでもなかったものですから各市町単位で動いているのが実情であるということになります。川下委員のおっしゃる通りだと思います。

(大森委員)

これ進めるにあたって、また大きな話をして申し訳ないですけど、日本の国はオ

ーオトラリアの成功をモデルにしているんです。これどういうことかという、あんな広いところで少ししか人が居ないのに、どうやってこの運動をさせるのかということだったんですけれども、これ大事なことで実は中央にそういうセンターがありまして、この競技は、この時こんな練習しましょう。今、どんな状況ですかというようなことをですね、やり取りできるように作っていたんです。せつかく今、コロナ化で子どもたちがタブレットを持ちましたから、何かしら指導の方法ということが、恐らく次の段階で出てくるはずなんです。そういう準備も我々はしとかなきゃいけないじゃないか。ただ、この時に問題は、Aという指導者とBという指導者の意見が合わない時に、どういうふうにするのかということまで考えておかなければいけません。これが一番、もしかしたら現場では錯そうすることになる可能性がある。ただ、そのことについては、七尾の教育委員会として県がなるかもしれないけれども、そのような方向に行くことは間違いないので、こういう準備をしておかなきゃいけないと思うんです。制度については、多分現場に諍いがなければ進んでいくんだらうと思います。機会がどれだけ与えることができるか。先ほど、機会の均等と言いましたけれども、これを崩して選択と集中って言いましたけど、現場はいかに機会を均等に差し上げるかってことを考えていかなきゃいけないというふうに思います。それが解決策だと私は思います以上です。

（國下委員）

今の話で、先生がAという指導者とBという指導者の話があったんで、ついでに大変失礼な言い方かもしれないけど、今、中学の先生で移行してしまうと良かったと思う先生が多いのか、それとも絶対やりたいという先生が多いのか。もう野球を指導するために教師になったんだという先生はいないですか。そういう把握はされているか。

（井上委員）

女性の先生で、お子さんがおられる方も部の顧問をしてもらっています。本当はお迎えに行かなければいけないのに部の顧問をしていただいて、おじいちゃん、おばあちゃんに頼んだりとか、旦那さんに頼んだりとかして、出て行くときも申し訳ありませんって他の先生に頼んで最後の挨拶だけっていうふうになっている方もいますし、中には今おっしゃったように、やっぱり競技が好きで頑張ってるっていう職員もいます。

（國下委員）

そういう先生がいたら、私はずっとやりたいと指導して、またクラブへ行くと競技団体のBという人になりますよね。そういうのが一番問題で、その辺どうなっていますか。

（井上委員）

ただ、その辺は熱の入っている方っていうのはなんだかんだ言って、その協会のつながりがあったりして、他の指導者ともなんだかんだ話をしながらやっていますので、この部分はお任せしますよと、例えば土曜日、いろんな中学校の生徒を集めて、やっていただくと、それで学校に行ったら学校で部のときはっていうふう、そこはまずこうなっていくんじゃないかなっていうふうな気はしています。

(平山委員代理)

現場の指導員として一番の目的は、3ページの3の(3)が一番大事なことだと、教育委員会は考えているんだと私は思っている。先生方の多忙化、この部活動指導員をたくさん予算の関係もあるのかもしれないですけど、いろんなふうになんとか部活指導員をたくさん設けて、先生の負担を少なくするような体制を持っていかないとダメ。その問題解決するんだよなと思います。

(横川教育総務課長)

今、部活動指導員の話も出ました。現在、七尾市で5名ということですけど、来年度、地域移行を進めていく中で、増員に向けて要望しています。必ず実現すると今の段階ではお答えできませんので、要望はしているという状況です。

(石川教育部長)

本日の部活動のあり方検討委員会は、短期1年で解散するというものではなく、当面、必要な委員会として継続審議・協議をお願いしたいのですが、おさえていただきたいのは、8ページの資料で、令和5年度から3年間の間で、休日の部活動を移行させるということなので、今、資料の中でも休日は、平日はとありましたが、目指す姿としては8ページの下ですね、8年度以降については、平日はほぼほぼ地域にスポーツ活動は移行する。下の表のほうに平日勤務時間外というのが残っていますけれど、平日の活動、休日の活動、そのスポーツ活動の環境は地域にほぼほぼ移行すると考えています。だから、これはややこしいです。まだ移行期間なので休日は、平日はという言葉が出てしまってややこしいですが、ゆくゆくは、地域スポーツの関係では地域にあるということになるのかなと考えています。

(黒崎委員長)

それでは予定していた時間も過ぎてしまっているんで、最後に。

(佐原副委員長)

クラブマネージャーをしていて、毎年年末になったら困るのが、来年、今やっている指導者がやってくれるかなと。それから、こういうクラブを作りたい、新聞に指導者いませんかとかいう指導者の確保っていうのはできるのかなと。今まで先生方が素人でもいろいろ工夫して、学校でやってくれたことを、地域でする時には、やっぱり何かできないことが多いと思います。この代替案を考えた人は、指導者もたくさんおるような地域で、こういう方々が考えた方針だと思うので、それが可能かどうかというのを、細かくやっていただきたいなと思います。それから7ページの、令和5年度は2月に第2回が開催されるんですけども、それまでにしておくことは具体的にないんでしょうか。

(横川教育総務課長)

来年2月の2回目開催の会議につきましては、今回ご意見をいただいた点について報告させていただくということと、移行予定の13の部活動について、今後、教育委員会のほうで、各団体スポーツクラブと協議をさせていただいて、出来る出来ないというのも出てくるかと思っています。これ以外にも出来るよっていうところもあ

るかと思えます。その辺を協議させていただいた結果を2月の会議で報告させていただきたいなと思っています。

(黒崎委員長)

今、佐原委員の御意見を踏まえて行けば、指導者の確保をして行かなければならないという中では、やはり指導者の洗い出しと言いますか、募集をかけていく必要があるのではないかなと思います。差し当たっては、学校現場の教員で今部活顧問をしている、そういった教員がいわゆるクラブ・スポーツのほうでも指導していただけるのかどうかという、その辺りの確認と言いますか、そういう調査をしていかなければならないのではないかなと思っておりますが、そこはいかがでしょうか。

(横川教育総務課長)

おっしゃる通り、教員の希望調査も行う必要があると考えています。本当に指導者不足っていうのが一番の課題でありまして、資格があれば一番望ましいんですけども、必ずしも資格は必要ございませんので、そういった指導したいという方がいれば結構ですし、あと石川県スポーツ協会などで行っていますが、公認スポーツの指導者講習もあります。そういった講習を受ける際の費用面そういった補助的なところもまた今後出てくるのではないかなと思っております、そういう体制ができれば、ぜひ皆さんにお声かけさせていただいて募集したいなと思っています。

(佐原委員)

学校以外の者が引率するという時に本当に資格は入らないのか。

(横川教育総務課長)

基本的に資格があれば望ましいですが、今、外部コーチの方も資格を持ってない方もいると思います。

(平山委員代理)

私らは公認指導員を持っている。恐ろしくて教えられない。

(黒崎委員長)

そこも含めて、そして確認していただくということで。

(横川教育総務課長)

そういったところを、次回の会議でお答えさせていただければと思います。

(黒崎委員長)

はい、時間も来ているんですけども、まだ言い足りない、言い残していますという方いますでしょうか。

(川下委員)

6ページの(6)⑤のプロスポーツ団体等の関わりについてですが、説明がなかった。

(横川教育総務課長)

今後、急にプロスポーツのほうっていうことは考えていませんので、ある程度金沢武士団やミリオンスタースとか、そういったオフの日に、教室を開いていただく、そういったところからまず進めていきたいと考えています。

(國下委員)

これは既に七尾市から七尾市体育協会にお金をいただいて、野球と次は金沢武士団を予定している。そういう関りなら、もう始まっています。

(黒崎委員長)

昨日、田鶴浜小学校と中島小学校で金沢武士団の選手が来て、少しバスケットボール教室で交流をしたという実績もございますので、お知らせしておきます。それでは、時間を超過してしまって、本当に申し訳ありませんでした。事務局に投げかけられた課題だけではなくて、中体連が中学校の現場に投げかけた課題もあるのかなと言うふうに思っていますので、そういったところを少し整理しまして、次回、回答できればなと思っています。すべての議事が終わったということで、議事の進行にご協力いただきありがとうございます。進行を事務局にお返しします。

(横川教育総務課長)

委員長ありがとうございます。貴重なご意見ありがとうございました。これは来年2月の会議のほうで、進捗状況をご報告をさせていただきたいと思えます。また、令和5年度につきましては、年4回ほどの会議を予定していますので、皆さんご協力のほどよろしく願いいたします。今回は運動部についての検討ということでお集まりいただきました。教育委員会のほうでは、文化部のほうも合わせて協議していこうということで考えています。最後に閉会の挨拶を佐原副委員長をお願いいたします。

<閉会あいさつ>

(佐原副委員長)

自分も、中学校のときに部活動に参加したわけで、今この場におらせていただいているんだと思っています。これからの中学生の新しい健全に体力とか精神を鍛えられるような部活動の実施を皆さんで考えることができ本当に幸せだと思っています。これからも是非、皆様のご協力お願いいたします。

(横川教育総務課長)

ありがとうございます。以上で、第1回七尾市部活動のあり方検討委員会を終了致します。